

市民病院だより

予防接種を受けましょう

小児科医師 安藤万里子

お母さんが赤ちゃんにプレゼントした病気に対する抵抗力(免疫)は、百日せきでは生後3か月までに、はしかでは生後12か月までに自然に失われていきます。そのため、この時期をすぎると、赤ちゃん自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。

1. 予防接種とは

抵抗力のない赤ちゃんが、ウイルスや細菌に感染し、重症になると、重い後遺症が残ったり、死に至ったりすることもあります。そのような危険を減らすために抵抗力(免疫)をつけるのが予防接種の役割です。「予防接種」に使う薬液のことを「ワクチン」といいます。

2. 予防接種の最近の動向

日本の予防接種は、これまでMMRや三種混合ワクチンによる副作用が問題となったため、他の先進国にくらべ、かなり遅れていました。

しかし、2006年から、麻疹風疹ワクチンが2回接種(1歳児と年長児)となったことを筆頭に、徐々に世界に追いつきつつあります。

2009年には、日本脳炎ワクチンの副作用で、一度は積極的勧奨をひかえていましたが、日本脳炎ワクチンが、新しいワクチンができたことで、勧奨再開となりました。

そして、ポリオワクチン(生ワクチン)からは、ワクチン接種による麻痺がみられたため、2012年9月には麻痺の心配のない不活化ポリオワクチンが定期予防接種(予防接種法という法律に基づき、国がすすめるワクチン)にかわり、10月31日

には、これまでの三種混合ワクチンに不活化ポリオワクチンを混合した4種混合ワクチンも定期予防接種になりました。

さらに、この4月には、新たに3ワクチン(小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン、HPV(子宮頸癌予防ワクチン))が定期予防接種に追加されたことで、日本の予防接種は、ほぼ世界標準となりました。

3. ロタウイルスワクチン

ロタウイルス胃腸炎は、「ロタウイルス」の感染が原因で、毎年冬から春にかけて流行します。乳幼児がかかる急性の感染性胃腸炎で、もっとも重症化しやすいもので、入院が必要になることも多く、まれに脳炎、脳症など重い合併症をおこします。

ロタウイルスワクチンは、2回の接種で、重症ロタウイルス胃腸炎の発症をほぼ予防できます。現在、日本では、任意予防接種(希望する人が費用を自己負担して受けるワクチン)ですが、世界の29か国では定期予防接種になっています。

しかし、小城市では、2012年4月から公費助成があり(2回接種に対し、1回5,000円ずつを2回の助成)、受けやすくなっています。

このロタウイルスワクチンは、生後6週〜24週でしか接種できませんので、ご希望の方は早めにご検討ください。

定期予防接種も任意予防接種も、いずれも予防接種は強制ではなく、保護者の判断に委ねられています。

予防接種は、病気を100%予防するものではありませんが、かかってもし軽症ですむことが多いので、お子さんの健康にお役立てください。

最近では、受けるべき予防接種の数が多いため、接種スケジュールにお困りの方は、当院にご相談ください。



時間外受診をされる方へ

急病などでの時間外受診の場合は、必ず電話で宿日直医師の担当診療科をお問合せください。専門外の疾病の場合は、診察できませんのでご了承ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>